

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：82621

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652047

研究課題名(和文) 東アジア地域のデザインにみる交流に関する歴史的研究：中国、台湾、韓国、日本

研究課題名(英文) Historical Research Into Design-related Exchanges in East Asia: China, Taiwan, Korea and Japan

研究代表者

木田 拓也 (Kida, Takuya)

独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・工芸課・主任研究員

研究者番号：40300694

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本という枠組を越え、東アジアという広域的な地域におけるデザイン史という研究領域を開拓することを目標に、日本、韓国、台湾、中国におけるデザインをめぐる人とモノの相互交流に関心を向けて調査研究を行った。具体的には、展覧会、博覧会、教育機関、留学生などに注目し、研究会やシンポジウムで研究成果を公表した。2012年3月にはトロントのヨーク大学で、同年5月には東京国立近代美術館で、2013年6月には台湾の雲林大学でシンポジウムや研究会を実施した。また、台湾、韓国、香港、イギリスのデザイン史研究者と交流を深め、今後の調査研究を進めていく上で基盤となるネットワークを構築することができた。

研究成果の概要(英文)：In an attempt to create a new area of research into the history of design in East Asia, a larger region beyond the framework of Japanese border, this research focused on design-related exchanges of people and things among China, Taiwan, Korea and Japan. Specifically, we focused on exhibitions, expositions, educational institutions and students who studied abroad, and published the findings at study meetings and symposia. We held related symposia and conferences at York University in Toronto, Canada in March 2012, at the National Museum of Modern Art, Tokyo in May 2012, and at Yunlin University in Taiwan in June 2013. In addition, we deepened exchanges with design historians in Taiwan, Korea, Hong Kong and the UK to build a network that would serve as the basis for further research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：デザイン史 アジア 国際交流

1. 研究開始当初の背景

日本デザイン史研究は過去 10 年間目覚ましい発展をとげ、欧米でも注目されてきている。欧米の研究的方法論をとりいれ、日本での実証研究に応用して進めてきたことが成功の要因といえる。しかし日本のデザイン史研究は欧米と日本との関係に偏り欧米デザイン受容史の視点が強調されてきたきらいがある。日本のデザイン史研究者のアジアへの興味が欠落していたことに加え、これまで旧植民地の研究や東アジア地域の政治状況の不安定さから日本と東アジア地域のデザイン交流史を研究することが難しかったことがその背景にある。

21 世紀になりこの状況は変化しつつあり、欧米でのデザイン史研究もポストコロニアル論の影響を受け欧米中心主義の批判と修正論が議論されている。

先行研究としては日本近代デザイン史の通史が既に数冊出されているほか、個別事例研究にも多くの気鋭が取り組み、日本のデザインにおける近代性の研究を蓄積してきている。しかしその多くは欧米のデザイン思想移植を中心とした日本対欧米のデザイン史である。その一方で、東アジア地域間を関連づけたデザイン史研究はいまだ遅れている。

2. 研究の目的

本研究は東アジアの近代デザイン史という研究領域を開拓するため、東アジア間のデザインをめぐる交流と近代化に関する資料収集と東アジアデザイン史研究者のネットワークを構築し、デザイン史の分野に「東アジア」という新しい枠組みを構築することを目的としている。

時代区分としては、1920 年～90 年までを対象とする。それは日本の国立工芸指導所が設立された日本のデザイン萌芽期から民国期以降中断され中華人民共和国となって鄧小平の経済改革解放政策後に開花する遅咲きの近代デザイン運動までを含み、欧米の直線継続的な近代という時代区分とは一部重なりながらもはみ出してしまう東アジアの近代デザインの枠組みを示すからである。

3. 研究の方法

本研究は、共同研究者の個別の調査研究を基礎とするが、ワークショップでの発表討議を通じて、情報と問題意識の共有化をはかり、それらを共同的知見に高めるという形で、三年計画ですすめる。

調査対象は日本国内および東アジア地域(中国、韓国、台湾)とする。調査を効率良く進めると同時に、今後の東アジアのデザイン史を発展させるため、すでにコンタクトのある香港、台湾、ソウルで活躍するデザイン研究者に面会して情報交換するとともに、研究会やシンポジウムへの参加を促し、助言を

求める。

なお、本研究に参加する三名の研究者は、いずれも、東アジアにおけるデザインの相互作用に高い関心を抱いている。これまで学会や研究会などを通じて互いに研究領域や方法についてよく知っており、密接なネットワークの構築が容易に可能であり、本研究プロジェクトを通じて、あらたな研究段階への発展が期待できる。

4. 研究成果

一年目(平成 23 年度)には東京で打合せ会議を二回実施し、研究調査対象やその方法や今後の計画について意見交換を行った。そして、トロント(カナダ、2012 年 3 月)で、Oriental Modernity: Translating and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World と題して研究会を行い、本研究メンバーの木田拓也(研究代表者)と井口壽乃(研究分担者)が参加、菊池裕子(ロンドン芸術大学)、ウエンディ・ウオン(ヨーク大学)、ユナ・リー(ブライトン大学)が加わり、「東アジア」という枠組みでのデザイン史の成立の可能性について、参加者それぞれが個別のパネル発表を行い、それに対する意見交換を行った。

二年目(平成 24 年度)には、トロントでの研究会を踏まえ、「越境する日本人：工芸家が夢見たアジア」展(東京国立近代美術館、平成 24 年 4 月～7 月)の会期中に、本科研メンバーを中心に、国際シンポジウム「オリエンタル・モダニティ：東アジアのデザイン史 1920-1990」(平成 24 年 5 月、東京国立近代美術館)を実施した。日本、韓国、中国の国境を越えて展開した工芸/デザインの事例を報告した。会場の参加者からも、活発な意見が交わされた。

三年目(平成 25 年度)には台湾の雲林工科大学において国際シンポジウム「Translating and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World」が開催され、本科研メンバー3名(木田拓也、井口壽乃、菅(井田)靖子)が参加した。この台湾でのシンポジウムでは、工芸/プロダクト、ファッション、グラフィックデザインの三つの分野に分けてセッションが組まれた。工芸、デザイン、ファッション、展覧会、博覧会、教育機関、デザイン指導機関、用語の問題など、多岐にわたる議論が、日本、台湾、韓国、イギリス、オーストラリア、中国、香港から参加したデザイン史研究者計 18 名とともに討議が行われた。東アジアという枠組みでのデザイン史構築の可能性や、基礎的な用語の確認作業などを行い、将来的な協力関係構築の可能性を探った。

本研究に参加した三名のこの三年間の活動を振り返ってみると、こうした「東アジアデザイン史」に焦点を絞ったシンポジウムや研究会以外にも、国際的なデザイン史学会等

での個別の研究発表や論文投稿を活発に行い、本研究課題に即した研究を深めるとともに、今後の展開の方向性をさぐり、さらには在外研究者とのネットワークを構築することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

木田拓也、Japanese-ness/Asian-ness in Crafts in the 1920s-30s: From the Works in Government Sponsored Competitive Exhibition, Teiten, *Proceedings for Transplanting and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World*, 査読無、Vol. 1, 2013, 1-3

木田拓也、日本統治時代の朝鮮美術工芸：もうひとつの日本近代工芸史、鹿島美術研究、査読無、第30号別冊、2013、181-191

木田拓也、大陸に渡った工芸家：近代日本の工芸家にとっての「アジア的なもの」、デザイン史学、査読無、第11巻、2013年、122-127

井口壽乃、Visual propaganda in colonial Taiwan: The Taiwan Exposition commemorating the 40th Anniversary of Japanese rule, *Proceedings for Transplanting and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World* 査読無、Vol. 1, 2013, 63-67

菅(井田)靖子、Crafting a Bridge between China and Japan: Jiyu Gakuen Beijing School 1938-45, *Proceedings for Transplanting and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World* 査読無、Vol. 1, 2013, 32-38

井口壽乃、The Era of the World Design Conference, From Postwar to Postmodern 1945-1989 Primary Documents, 査読無、Vol. 1, 2012, 155-156

木田拓也、Japanese Crafts and Cultural Exchange with the USA in the 1950s: Soft Power and John D. Rockefeller III during the Cold War, *Journal of Design History*, Vol. 25, 2012, 査読有、379-399, DOI:10.1093/jdh/eps033

[学会発表](計8件)

木田拓也、アメリカの美術館のコレクションにみる日本の近代工芸、白山谷喜太郎と日米文化交流：国際シンポジウム パシフィック・クロッシング、2013年11月24日、金沢21世紀美術館

木田拓也、Crafts Crossing Borders in 1920s-40s, *Inter-Asia Cultural Studies Society*, 2013年7月5日、National University of Singapore

木田拓也、Japanese-ness/Asian-ness in Crafts in the 1920s-30s: From the Works in Government Sponsored Competitive Exhibition, Teiten, *Transplanting and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World 2013 The International Design History Symposium*, 2013年6月27日、National Yunlin University of Science and Technology

井口壽乃、Visual propaganda in colonial Taiwan: The Taiwan Exposition commemorating the 40th Anniversary of Japanese rule, *Transplanting and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World 2013 The International Design History Symposium*, 2013年6月27日、National Yunlin University of Science and Technology

菅(井田)靖子、Crafting a Bridge between China and Japan: Jiyu Gakuen Beijing School 1938-45, *Transplanting and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World 2013 The International Design History Symposium*, 2013年6月27日、National Yunlin University of Science and Technology

木田拓也、Japanese-ness in the Design Works for the Tokyo Olympics: Design Project 1964, AIGA design educators conference, 2012年12月5日、University of Hawaii at Manoa

木田拓也、大陸に渡った工芸家：近代日本の工芸家にとっての「アジア的なもの」、国際シンポジウム オリエンタル・モダニティ 東アジアのデザイン史 1920-1990、2012年7月14日、東京国立近代美術館

菅(井田)靖子、東アジア圏を結ぶ工芸活動：自由学園北京生活学校、国際シンポジウム オリエンタル・モダニティ 東アジアのデザイン史 1920-1990、2012年7月14日、東京国立近代美術館

[図書](計2件)

木田拓也ほか(共著)、東京国立近代美術館、『東京オリンピック1964デザインプロジェクト』2013、8-14

木田拓也ほか(共著)、東京国立近代美術館、『越境する日本人：工芸家が夢見たアジア 1910s-1945』2012、10-19

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木田 拓也 (KIDA, Takuya)

独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・工芸課・主任研究員

研究者番号：40300694

(2) 研究分担者

井口 壽乃 (IGUCHI, Toshino)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：00305814

(3)研究分担者

井田 (菅) 靖子 (IDA, Yasuko)
津田塾大学・学芸学部・准教授
研究者番号：20312910